全員協議会で活発な論議かわさる

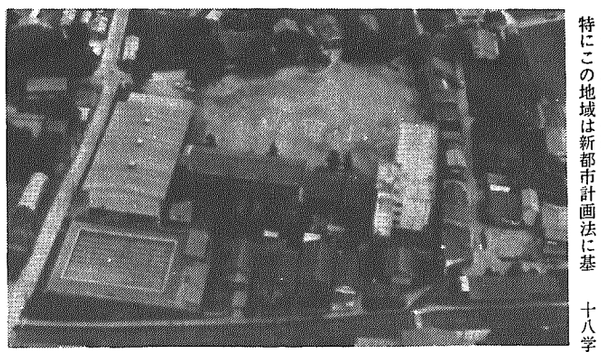
第二山田小(仮称)の建設計画

去る九月五日、役場議場において議会の全員協議会が開催され、山田小学校建設に関する、討論が活発にかわされ議会全員協議会での意志決定をみた。

冒頭、村長より今後の学校建設問題を考える上には非常に重大な案件であり、山田小学校に限らず村内全般の学校教育についても慎重に協議願いたい旨、あいさつがあり、引き続き今までの経過及び現状の大綱にふれ、今回は山田小学校の問題について教育委員会で研究を願った所、第二山田小学校（仮称）の建設は急務であるという答申がなされ、現山田小学校の拡張は困難を極め、再三にわたり県教育庁の指導をあおいだ所、校地面積が国の指定する基準面積をはるかに下まわっており、また、これ以上の校地の拡張は不可能であるという判断が下され、従ってこれについて教育委員会で再度、細部にわたり研究協議を願った所、第二山田小学校（仮称）建設ということで意見がまとまった。

教育委員会での見解は過去十年間における山田校区の人口増は目を見張らせるものがあり、昭和三十八年、二、〇四八人から除々に増加し、本年度では二・四倍の四、九二〇人にまでふくれあがった。これは四十一年度、四十二年度の二回にわたる県住宅供給公社による団地の造成はさることながら、これにも増して、一般住宅の建設は年々増加の一途をたどっている。特にこの地域は新都市計画法に基づく市街化区域でもあり、今後はさらに市街化が計られると共に宅地増成や住宅の建築は今日以上に進むものと思われ、また、地域児童の父兄の職業構成を分類してみても、一般サラリーマンがトップをしめ、農家戸数は年に減少してきている。この事からみても農地がしだいに宅地に転用され、さらに北陸高速自動車道、上越新幹線等計画路線の建設により学区内の様相は更に変化し益々、住宅地が造成されるものと予想される。

また、現時点で住民登録により今後入学見込みの幼児を算出した場合、将来五十二年までには各学年ともに二学級となり、五年間で十八学級の大規模校になることは必然的であり、これに住宅建設率（今後住宅が建設されて児童が増加する見込数）をプラスすると二十四学級という大野小をしのぐ学校になるものと想定される。従って第二山田小（仮称）の建設は急務であり、学校分離（新設の山田小学校には、寺地、立仏、寺地団地、焼鮒団地の児童が、現在の山田小には善久、柳作、山田上、山田下の児童が通学という案も当然考えられ既設の小学校は最高十二学級にとどめ、昨年買収した校地二二、〇〇〇㎡に四十八年度を目途に第二山田小学校（仮称）を建設する計画であり、これに対し活発な質議がかわされた。



まわりは住宅で動きのとれない山田小

財布の中みは？

一、財政的な見通しは

答　十二学級の学校を新設するとした場合、国庫補助金が校舎建築費に対しx補助、体育館に対してはx補助、従って村費の持出しは七、六〇〇万円程度であるため、財政的にはそう困難ではない。

一、通学道路と距離はどうか

答　遠距離と思われる、校舎建設予定地から焼鮒団地まで約一・六㎞同じく寺地団地まで約一・三㎞、既設の校舎から善久まで一・五㎞である。また通学路と思われる、村道鳥原、寺地線は、今年度より舗装工事を初め、学校用地附近まで都市計画街路として延長され、道路整備も除々に進めて行く方針である。

一、新潟市境界線附近に建設予定であるが市児童の委託は考えているか。

答　委託は考えていない

一、四十八年度は当然学級数が増え教室が不足すると思うがプレハブ教室建設の計画は、

答　プレハブは建設しないで特別教室を利用する方法でいる。

一、住民の意見を聞いて校区の方線を引いたのか

答　校区より教育委員が就任されているので、それらの意見、また距離的な事柄等も充分尊重して引いたものです。

一、小学校が増加すればおのずから中学校も増加ということになるが、現在の中学校一ケ校についてどのように対処するか

答　当然中学校の件も今後、考慮しなくてはならなく考えていないわけではない。

一、校区変更等について地域住民は動揺すると思うが、これに関する説明会等は開催するのか。

答　なんとしても校区住民から理解し、納得してもらうことが先決であり、PRは当然やらなければならず、九月十二日には校区代表者等から参集願い説明会を行なう予定である。

一、分離しないでできないか。

答　このことは将来をよくみつめ見通した考え方で進めてきたことでもあり、これ以外のことは考えられない。

以上のような質議がかわされ、出席全議員の賛同を得、午後四時終了した。

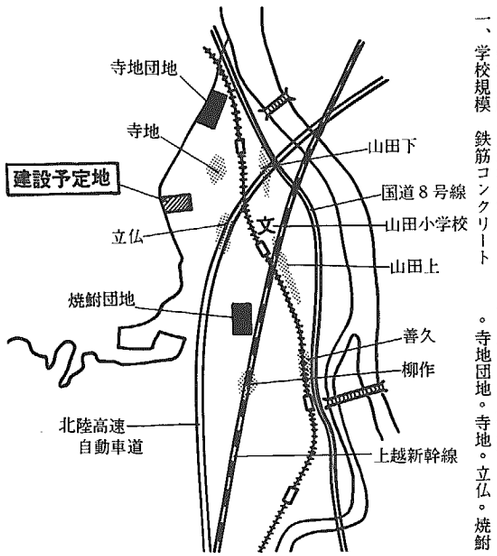
（表1）

山田校区，人口，世帯，児童数の推移（各年とも5月1日現在）

区分＼年度	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
人口	2,048	2,198	2,292	2,381	3,060	3,476	4,029	4,295	4,580	4,920
世帯数	385	403	472	541	771	862	1,051	1,115	1,198	1,316
児童数	207	223	245	243	282	314	371	404	429	485
学級数	6	6	6	6	9	11	12	12	12	13

建設的な意見が集中

校区代表者説明会で



また、九月十二日役場議場で校区部落・PTA代表及各関係者の出席のもとで説明会がもたれ、関係者から建設的な意見がのべられた。村長、教育長、事務局の説明が終了すると質議に移り、学校規模、工事着工、完成期限、学童の移転、通学道路の整備、校区の変更、既設山田小の今後の問題、校名等建設的な意見が集中した。

一、着工期限　昭和四十八年七月上旬の予定

一、完成年月日　昭和四十八年十二月下旬の予定

一、建設場所　黒埼村大字立仏

一、学校規模　鉄筋コンクリート三階建　暖房設備完備　12学級程度の校舎一、二二〇㎡、校地面積一二、〇〇〇㎡、体育館四五〇㎡程度

一、建設事業費　一億二七二三万円程度

一、学童の移転　完成後準備等のととのえしだい。

一、道路の整備　主要道と考えられる鳥原寺地線は今年度より舗装工事に着手

一、校区の変更　教育委員会において慎重審議の決果決定したもの。

△第二山田小（仮称）。寺地団地。寺地。立仏。焼鮒団地

△現山田小。善久。柳作。山田上。山田下

一、校名　おそくとも、四十八年三月末頃までに決定、校区関係者間で決定してもらえば最良

一、現山田小今後の問題

現在の山田小（分離後）は昭和五十二年度では、十二学級の中規模校となることは必然的であり、将来移転も充分考えられる。

◎これらは現段階ではあくまでも計画であり、確定的な数字ではない事を申し添えます。

（表2）

山田校区，住宅建築の推移

年度	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
住宅建築戸数	42	18	69	69	230	91	189	64	83	118

（表3）

入学予定者数及児童数　47.5.1住民登録人口

区分＼年度及学年	将来					現在					
	52年入学	51年入学	50年入学	49年入学	48年入学	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	125	123	126	114	112	98	85	87	72	78	65
学級数	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2

建設の理由

前文と重復するようですが、ご承知のように、山田校区は新潟市の中心部から、5㎞という地理的条件と市の都市開発による過密化により、年々、人口増を示し（表1参照）現在の山田小学校校地は非常に狭あいで国に定める面積基準のx にも満たなく、また写真のように校地周辺は住宅が隣接し、拡大は不可能であり、施設規模の拡大は国の認可を得ることができない。今後将来も地理的自然条件により益々宅地造成がはかられる事は必然的と考えられる。

これらの住宅建築（表2参照）に伴って当然児童の増加も見込まれ、昭和四十七年五月一日現在、住民登録による今後入学見込み者数は（表3）のように昭和五十二年度には十八学級になり、これに最低年間一一五戸から一五〇戸の住宅建築率を加算すると二十四学級の大規模校になるものと予想され施設規模の拡大は県教育委員会文部省の認可を得る事ができないなど以上のような理由により、第二山田小学校（仮称）建設は絶対的条件である。

スクールゾーン設定!!

去る9月16日、役場第一委員会室においてスクールゾーン設定について関係者会議が開催された。

秋の全国交通安全運動9月22日㈮～10月1日㈰に先き立ち、可愛い子供達を交通事故から守ろうと、警察、大野小、中学校、安全協会、母の会、指導隊、大野小及び中学校PTA会長、大野町総代、教育委員会、役場等によってスクールゾーン設定会議が開催された。黒埼村のモデルスクールゾーン地域として大野小、大野保育所と興野保育所、中学校を中心とした半径五〇〇メートルの地域二ケ所を交通事故防止区域（スクールゾーン）と指定し、交通安全施設の充実、交通規制、街頭指導の強化を重点目標にまた、運転者、村民にもこの場所はスクールゾーン地域という意識高揚を図ることを目的に行なわれる。

尚状況をみて村内各小学校、保育所にも設定する予定です。

健康な体こそ徒歩から
登山、ハイク同好会設立

このたび、健康な体づくりと会員同志の融和と親睦をはかる目的で、登山ハイク同好会が、同好者と黒埼村公民館により設立されました。参加ご希望の方は次の要領でどうぞ。

●申込先
黒埼村公民館　社会体育係
TEL　7・3103

●資格
身体強健で活動力のある人
高校生以上の男女

●申込書
公民館に備えてあります。